

令和2年度第2回北秋田市総合教育会議 会議録

1. 開催期日 令和2年11月26日（木）
2. 開催場所 北秋田市民ふれあいプラザコムコム 大研修室
3. 開会及び閉会 開会：午後1時30分 閉会：午後3時21分
4. 出席者 北秋田市長 津谷 永光
＜北秋田市教育委員会＞
教育長 佐藤 昭洋
委 員 佐藤 正俊
委 員 佐藤 英樹
委 員 蒔苗 隆
委 員 藤本 基子
5. 欠席委員 なし
6. 出席職員 ＜教育委員会事務局＞
教育次長 小笠原吉明 総務課総務係長（書記） 三澤 照美
総務課長 金田 浩樹 北部学校給食センター所長 福田いずみ
学校教育課長 小林 秀雄 義務教育係長 佐藤 貴子
生涯学習課長 長岐 孝生 生涯学習係長 成田美穂子
スポーツ振興課長 藤野 義則 文化係長 山本 明美
スポーツ係長 松橋 康浩
7. 案 件 (1) 令和2年度主要教育施策の実施状況（上半期）について
(2) 意見交換

8. 会議録

小笠原教育次長	ただいまから、令和2年度第2回北秋田市総合教育会議を開催いたします。 はじめに、津谷市長から御挨拶をお願いします。
津谷市長	皆様、大変お忙しい中、令和2年度第2回北秋田市総合教育会議に御出席いただき誠にありがとうございました。 教育委員の皆様には、日頃より教育行政の推進につきまして、多大なる御尽力をいただいておりますことに心から感謝を申し上げます。 新型コロナウイルスには日々緊張の毎日ですが、感染症対策として、市では対策本部や緊急経済対策室を設置させていただいた上、市民生活への影響を最小限にすべく追加の補正予算等により、各学校にマスクや消毒液、サーキュレーターを準備するなどの予防対策や、地域の経済対策を講じてきたところでございます。 また、児童・生徒に1人1台のパソコンを整備する、いわゆるGIGA（ギガ）スクールの実現や教室へのエアコン設置など、学習環境の充実を図ってきております。 文化祭を始め、多くのイベントや事業が見送られる中で、世界文化遺産登録を目指している「北海道・北東北の縄文遺跡群」のイコモスの現地調査が9月に行われたほか、鷹巣中央小学校や鷹巣南小学校の閉校記念式典も挙行されるなど、予防対策を講じながら少しずつ動き始めております。今後は、コロナ禍での社会活動、経済活動の施策を講じていくことが必要となって参ります。アフターコロナという言葉も使われておりますが、収束が見えない部分があります。私たちは新型コロナウイルスとうまく付き合い、様々なことを考えながら工夫していかなければなりません。 本日の会議は、各種事業の進捗状況の報告や説明が中心となりますが、今年度は、第二次総合計画後期基本計画の策定年度となっておりますことから、今後の教育施策について委員の皆様から、御提言を賜りますようお願い申し上げます。開会の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。
小笠原教育次長	ありがとうございました。 続きまして、佐藤教育長から挨拶をお願いします。
佐藤教育長	皆様、こんにちは。 今年は、新型コロナウイルス感染症への対策のために、様々な行事が中止や延期、見直しをさせられ、新しい生活様式の導入によって、これまでに経験したことのない対策が求められるようになったと感じています。現在、全国的に第3波が大きくなっている中で、今後の新たな動きも想定しながら対応しなければいけないと感じております。 さて、今年度の主要教育施策の実施状況については、この後、各課長から報告させていただきますので、私からは新型コロナウイルス感染症への対策から感じていることを述べた

佐藤教育長	いと思います。 新型コロナウイルス感染症への対策として中止となった施策は、人を集める事業や県外との交流事業などが中心となっています。主なものに市の文化祭や浜辺の歌音楽祭、チャレンジデーなどがありますが、文化祭については、展示部門を「みんなの作品展」として、コムコムや各公民館を会場に4期に分けて実施しているところであり、本日が4期の作品の入替えとなっています。文化祭から「みんなの作品展」にしたことによって、展示数も多くなり、市民の皆様から好評を得るなど、逆転の発想が功を奏したと感じております。延期になった事業は、成人式や100キロチャレンジマラソン、教育留学、国立市交流等ですが、今後の実施に向けて、万全を期して進めてまいりたいと考えております。 小・中学校では各学校が、それぞれの学校事情や地域事情なども考慮しながら、これまで実施してきた行事について、参観者の人数制限をしたり、日にちを変えた分散開催にするなど、密を避ける工夫をこらして極力実施しております。修学旅行についても、行き先や移動方法、日程を変更するなど、それぞれの学校が行事本来のねらいに立ち返って実施でき、これらの創意工夫について、身内ながら「さすが我が市の校長」と各校の校長を誇りに感じております。 様々な制限が求められている新型コロナウイルス感染症ですが、対策を通して慣例を見直してみるきっかけとなったり、よりよいものが生み出されてきたりしているのも事実です。この世界的な災難を前向きにとらえ、感染症が収束しても持続していくような施策や事業を、皆さんと共に知恵を出し合い模索できたらと考えています。 結びとなりますが、本日の会議の中で、新型コロナウイルス感染症への対策も含めた今後の方向性について御意見をいただき、それを踏まえて、来年度の計画に反映できるように検討して参りたいと考えておりますので、よろしくお願いします。
小笠原教育次長	ありがとうございました。 それでは、案件に入らせていただきます。本日は、令和2年度主要教育施策の実施状況（上半期）についてと、意見交換となっておりますが、意見交換では、今後予定されている「学校教育ビジョン」や「スポーツ振興計画」等についても意見を交わしていただければと思っておりますので、よろしくお願いします。 進行につきましては「北秋田市総合教育会議運営要綱」第3条により、議長は市長が行うことになっておりますので、津谷市長に案件の進行をお願いします。 津谷市長よろしくお願いします。
津谷市長	要項に基づいて議長を務めさせていただきますので、皆様方の御協力をよろしくお願いします。 初めに、案件（1）北秋田市教育大綱に基づく令和2年度主要教育施策の実施状況について、各担当課長から教育大綱区分と重点目標ごとに説明をお願いします。 学校教育編について、総務課長、学校教育課長からお願いします。

金田総務課長	令和2年度の実施状況は、教育大綱の区分として学校教育編、生涯学習編、スポーツ振興編の3編です。それぞれが重点目標の成果と課題について、主要な施策の特異的な点を交えて説明させていただきます。
金田総務課長 小林学校教育課長	＜ 学校教育編 重点目標ごとに各担当分説明＞
津谷市長	ただ今説明のありました学校教育編につきまして、委員の皆様方から御意見や御質問をお伺いいたします。
藤本委員	学校給食についてですが、小学校4年生の息子は、いつから完食し続けているか分からないくらい完食しておりまして、毎日おいしくいただいております。学校訪問でも学校給食をいただく機会がありましたが、野菜たっぷりの食材を生かした味付けで、私自身も調理の参考になっていますし、毎月の献立は冷蔵庫に貼って参考にしています。特に今回の「秋田応援メニュー」は、家の夕飯のときも子どもの話題に上がり、家庭での話題にもなっていて大変よい取組だと思いますので、来年度もスペシャル感をお願いしたいと思います。 A L Tの配置について、小学校4年生の息子は、まだ教科としてはやっていませんが、ジュン先生がゲームや文化を体感できる楽しい授業をしてくださっていて、最近パフェの素材について何がいいのか、みんなでわくわくしながら出し合ったそうです。そういう導入部分もすばらしく、A L Tの方が工夫した授業をしてくださっていると感じています。 今回学校訪問をし、図書費の充実と書かれてあるように、どの小・中学校も図書室を大切にされていることがよく分かり、大変よく整備されていて、子どもたちが本を手に取りやすい環境が整っていると思いました。新しい本が入った時など、どのように変わったかがすぐ分かるようになっており、子どもの図書への興味が実際に高まっていると感じています。 最後に、先生方の働き方について、先生方も父親、母親として、自分の子どもの授業参観には気兼ねなく休暇を取れるといいと思います。親として授業の様子を参観したり、他の保護者の方と交流したり、学校の掲示物をゆっくり見たり、先生方が御自分のお子さんの授業参観に来てくださればいいのと思います。また、心の病気で休んでいる先生もいらっしゃいますが、例えば、自分だけでできるようなストレスチェックなどは行っているものですか。
津谷市長	実際にお子様を持つ親の立場からも、大変温かい評価等ございました。ストレスチェックについて学校教育課長。
小林学校教育課長	ストレスチェックについては行っています。ただ、どの程度の先生がどういう結果であったかは、個人情報であり各人に結果が届くようになっています。教育委員会と

小林学校教育課長	しては、ストレスチェックでこういう状況の場合には、どこでカウンセリングを受けますよ、ということまでは周知していますが、どの先生が、どの程度のストレスで、その後どうしているのか追跡調査はできない状態です。産業医として紹介しているというところで踏みとどまっています。
藤本委員	ストレスチェックについては、ぜひ紙とかではなくて、自分がどういう状況か気付くために、パソコンであればストレスチェックをやったか、やらないかだけをチェックして、それを産業医に伝えますか、くらいの方がよいのかと思ったりします。自分で自分の心の状況に気が付く何かがあるのかと思ったところでした。
津谷市長	今の件で、蒔苗委員から何かありますか。
蒔苗委員	病院でもストレスチェックは毎年行っており、私は産業医として関わっていますが、自分でストレスに感じていることと、それを助ける人がいるかいないかなど、周囲の環境も絡んできます。治療しなければならない状態の人なのかということについては、一応の線が引かれていて、危ないような人には本人に伝え、本人の了解が得られればカウンセリングし、治療が必要であれば専門医の方に行ってもらうことにしています。 あくまでも本人の気持ちを主にしなければならないので、周りから見ておかしいと思うような人を見つけて何かしようとしても、無理なところはあります。
津谷市長	分かりました。 他にございますか。
佐藤正俊委員	今月の１３日の大阿仁小学校の学校訪問では、エド先生の低学年の複式の英語活動にとっても感心しました。先ほど小林課長が説明されたように、今年はＡＬＴの１名が帰国して現在は６人で行っている、今後は統合で学校が減るので現在のＡＬＴで対応できるということですが、エド先生の授業を見て、これからはもっと授業が増えるだろうと感じました。とすれば、６名ではなく７名では無理でしょうか。７名のＡＬＴが配置されれば、ＡＬＴが入った英語活動の授業がもう少し多くなっていくのではないかという気がしますがいかがでしょうか。 もう一つ、「教師力の向上、信頼される教師の育成」に関して、授業力はもちろんだと思いますが、学校訪問をして感じたことは、全員がマスクをしていることによって子どもの表情がなかなか読み取れないのではと感じました。本来、先生方の大事なことは、子どもに寄り添う教師、それが信頼される学校や教師に繋がるのだろーと私は思います。それを朝のホームルームで先生たちは観察していることだと思います。今は全員がマスクを付けている状態ですので、先生方が不安を感じていないものかと思いました。ある学校ではＡＬＴがマスクを外して、一つの単語を表情と口の動きが分かるように授業をしていて感心しました。押さえておくべき単語のところだけは少し

佐藤正俊委員	だけ外して、また付ける。すばらしい先生だと感じましたので、そういうところは褒めてあげてほしいと思いました。
津谷市長	ありがとうございました。学校教育課長。
小林学校教育課長	ALTの数についてですが、予算的なこともあって簡単に増やすことはできません。もう一つ今年に限ってのことですが、全国各地のJETプログラムでALTを入れている市町村では、現地から入国できずにいます。北秋田市は1人減っただけで入替えがなかったため、うまくいっていますが、入国できない状況の市町村もあります。人数の算定をどうしているかについてですが、3・4年生の外国語活動が週1時間、5・6年生の外国語は教科として行っていて週2時間です。1人のALTが週に3日小学校に勤務し、2日は中学校勤務となります。今の段階で、計算上では小学校の外国語活動と外国語の授業には全て入っており、残った授業が中学校でのTTということになりますが、中学校は英語の先生がいますので、ALTが必ずしもT2としていなくても授業を進めることができます。そういう点で6人でも大丈夫であろうという計算です。全部の授業にALTがいることが望ましい形ですが、予算面と天秤にかけた時に、さほど困ることがないだろうというのが理由です。 ALTのマスクにつきましては、おっしゃるとおりだとは思いますが、委員会から配布しているものではなく、個人で購入しているものです。英語の先生の中にはマウスシールドで授業をしている人がいるので、ALTにも紹介した方がよいのかと思いました。マウスシールドも必ずしも安全と言える状態ではありませんが、口元を見るという点では確かにそう思いました。鷹巣中央小学校の閉校式典では、合唱の場面で全員がマウスシールドを付けて歌っていましたので、今後コロナ禍の中ではいろいろな工夫が生み出されてくるのではないのかと考えています。 先生方の子どもに寄り添って顔が見えることに関する部分は、正俊委員のおっしゃるとおりだと思います。春先のことですが、今年赴任して来た先生が、マスクをしているといつも生徒の目だけしか見ていない。顔全体を見ていないのでなかなか顔を覚えられないと話していました。そういう点では、この状況では子どもの表情が見えないというのはおっしゃるとおりだと思います。ただ、小学校でも中学校でも、顔の表情や様子を見るのが一番ですが、それ以外に、生活ノートに書いてきたものにやりとりをしたり、家庭学習やプリントに朱書きをして戻したり、書いているものを通しながら子どもの気持ちに寄り添うことは継続してできていると感じています。マスクについては、早く新型コロナウイルスがなくなしてほしいというのが正直な気持ちです。 津谷市長 いろいろ参考になりました。コロナ禍の中では工夫をして、先生方は子どもたちの表情を読み取ることが大切でしょうから、よろしくお願いします。

佐藤英樹委員	先程も出されましたが、「教師力の向上、信頼される教師の育成」について、学校訪問で回数を重ねてくると、教室に入っただけで指導者の力量が分かります。それは何かというと、教師の持っている指導力はもちろんですが、人間力だと思います。これまで学力日本一を支えてきた秋田の教員、北秋田の教員が、退職する前に若い方々に継承したいという旨の文書がありますが、素晴らしい指導力を持った先生方が北秋田には多く見られましたので、その辺を計画的に進めていただければと思います。また、少人数指導のメリットを最大限に生かして、全国に発信できるようなシステムを作り上げてほしいと思います。 二点目として、新型コロナウイルス感染症のために学校行事・地域とのイベントがなくなって、子どもたちの無形文化財の継承などは発表の場がなくなりましたが、前田小学校に行ったら、前田小学校と森吉中学校と一緒に学習発表会で発表の場を設けたという話がありました。機転をきかせた先生方の工夫はすばらしいと思いました。今後もこの社会状況はしばらく続くと思いますので、負担は掛かりますが先生方にはがんばっていただきたいと思います。
津谷市長	二点ありましたが、いかがですか。
小林学校教育課長	一つ目については、私もそのように感じていますし、各校の校長が一番思っていることだと感じています。若手の先生が授業を見に行けるような工夫も各校で行ってほしいということを、校長会等をお願いしているところです。ただ、なかなかうまくいかない原因もあります。小学校の場合は小規模校が多いと学級担任以外の先生がいないので、担任が学級を離れるということは誰かが代わりに入らなければならないことになります。そこは、例えば教頭先生に代わってもらったりしながら授業を見てもらったりしているところです。行政的な施策としては、大阿仁小学校に小規模校特任教諭を配置して、今までは大阿仁小と阿仁合小だけであったものを、前田小にまで広げて週替わりで回っているところです。また、数学の教育専門監が森吉中学校にいますが、森吉中学校だけではなく小学校にも回って、主に若手の先生のT2として入っています。すばらしい授業を展開しているので、中学校などでは授業後に振り返りなどをして授業力向上を行っているところです。一律にはいきませんが、学校の規模等に合わせて工夫していきたいと考えています。 学校行事・イベントについては、これまでを振り返ってみると、かなり努力していると感じていますし、修学旅行も全国的に見るとあきらめてしまっている地域がたくさんありましたが、行き先や時期、交通手段など大変苦労して行ったのだと思います。各校が児童・生徒の人数、保護者の声などを大切にしながらいろいろな行事をしてきたことは、誇りに思えることだと感じています。
津谷市長	それでは、総務課と学校教育課については終わらせていただいて、次に生涯学習編に移らせていただきます。

長岐生涯学習課長	<生涯学習編 説明>
津谷市長	生涯学習編に御意見や御質問はございませんか。
藤本委員	生涯学習課による講座ですが、退職されて会社組織から地域へ入ってくる60歳から65歳くらいの方々が、急に地域社会に入るのは難しいところがあると思うので、市の講座に参加して地域の方と触れ合ったり、受講して心豊かになることで、参加することが地域社会にスムーズに入るきっかけになると感じます。そういう年代の方々にもおしゃれでかついいような講座を引き続き行っていただきたいと思います。 放課後子ども教室ですが、コロナに関係なく実施できていないところもあるようです。なかなか児童クラブだけでは、指導する方を見つけるのが難しいところもあると思いますので、生涯学習課の広い人脈で、地域の方と子どもたちを結び付けて、どこでも放課後子ども教室を開催してほしいと思っています。 保育園年長の子どもたちの図書館体験デーは、子どもたちに図書カードを持たせることは素晴らしいことで、自分の名前の書かれたカードを子どもたちは大切にしています。図書の利用にも繋がりますので、ぜひ継続をお願いしたいと思います 今年はいろいろな作品展があつて、郷土の芸術家に触れる機会がありましたが、渡辺喜恵子展も会場のレイアウトもよく、神成滯展も併設されていて、子どもたちとゆっくり見て楽しめました。訪れていた方々も、知らないどうしてもそこで立ち話などをしてよい雰囲気で行われていると思いましたし、私自身も知るよいきっかけとなりましたので引き続きよろしくお願いします。 最後に、民俗芸能大会は、そこに出演することが継続することに直結する団体もあると思いますので、保存のためにも広く声掛けをしてほしいと思います。
津谷市長	生涯学習課長。
長岐生涯学習課長	一つ目は、市の講座が退職された方の社会との繋がりのきっかけになるということでした。特に、男性が会社という組織を退職した後は、社会との繋がりを絶たれると感じています。改めてどのようなところをターゲットにするか、退職した後の男性というのも一つの対象ではあると考えています。 子ども教室の実施できていないところは米内沢と前田で、(NPO法人)冒険の鍵クーンに指導員としてお願いしていましたが、1年ほど前から実施できていません。どうするかを考えておりますが、鷹巣南小の子ども教室では公民館と共同で行っている例もありますので、公民館に来る方を利用して行えればと考えています。 図書館体験デーにつきましては、委員がおっしゃるとおり小さい時に本に触れるよい機会ですので、継続していきたいと思っています。 作品展について、現在文化会館では、地元縁の人たちがいるということを伝えていかなければ途絶えてしまうという思いがあり、作品展を開催しています。これからも企画は続けていければと思っています。

長岐生涯学習課長	民俗芸能大会が継承の有無に繋がっていく可能性があるということも一つです。毎年各地区の団体と今の状況や、市でできることなどの話し合いを持ち、やり取りはしています。民俗芸能大会の在り方も、どこに本質を置くべきか、見せるためなのか、継承するためなのかも含わせて検証しているところです。今年は開催ができず在り方を深める機会ではありましたが、次年度以降検討していきたいと思っています。
津谷市長	他にございますか。
佐藤正俊委員	成人式のことですが、アイディアを出し合いながら進め方を考えているところかと思いますが、成人される方の県内と県外の人数は分かりますか。
長岐生涯学習課長	今は、全体で290人位としか分かりません。
佐藤正俊委員	成人の方々にとって大事な行事であり、今の状況が変わってほしいとは思いますが、秋田県でも新型コロナウイルス感染症が増えてきているし、出入りできない地域もあるので大変難しい状況かと思います。大変な課題を抱えることになりますが、よい方向に進んでほしいと思っています。よろしくお願いします。
長岐生涯学習課長	ありがとうございます。県外の出席者がどれくらいいるのかの分析は、開催の有無に関わる一つの指標になると思います。確認して分析いたします。既にメッセージ等はいただいておりますので、それをどのように取り扱うかも含めて検討いたします。
津谷市長	次にスポーツ振興編に移らせてもらいます。スポーツ振興課長。
藤野スポーツ振興課長	< スポーツ振興編 説明 >
津谷市長	スポーツ振興編について、御意見や御質問はございませんか。
佐藤英樹委員	各事業については、少ない予算でよく行われていると感じています。県内の他の市町村を見ますと、県の予算や国の事業を利用して様々な事業を行っています。鹿角市など、総務省から予算をいただいてスポーツ拠点づくりを進めている事例もあります。ここに来る前にスポーツの事業を確認してみましたら、コロナ対策事業で全国規模の大会に補助する事業がありました。アンテナを高くして的確に情報収集し、北秋田市独自のスポーツ推進事業をぜひ進めていただきたいと思います。来年度に向けての展望にもなりますがよろしくお願いいたします。
津谷市長	スポーツ振興課長。

藤野スポーツ振興課長	情報の収集には努めております。競技によって温度差があり、今年のように大会が中止になると、情報提供をしても上位の大会が行われなため断られるような状況です。また陸上競技については、65歳以上は審判員として採用できないということで、それによって大会が実施できない例もあります。独自のルールで実施するとしておりますが、上位の大会への審判員の権限もあり、審判員がいない以上上位大会に行けないなど縛りもあります。 上の大会だけでなく情報収集には努めていきます。
佐藤英樹委員	100キロマラソンなども全国規模の大きい大会だと思います。コロナ対策事業も今年の分、来年の分と出てくると考えられますので、補助でできるものはそれを使った方がよいのではないかと思います。
藤野スポーツ振興課長	100キロマラソンについては、中止が決定してから事務局の方が何回も見えて、基本的に補助金は単年度ですが、今年の補助金で来年度の事業を進めていかないと間に合わないということでしたので、今は大会事務局と協議しております。
津谷市長	ほかにございますか。
藤本委員	P11の施設予約状況の確認ですが、実際見たところ表が色分けして表示されて分かりやすく、また、スマホでも見れますし、2月まで表示されており、進んだなと思いました。今後、施設利用の向上に繋がるとよいと思いました。
藤野スポーツ振興課長	ありがとうございます。
津谷市長	ありがとうございました。 それでは（１）の案件につきましては、委員の皆様方から御意見や御提言をいただきましたし、お褒めの言葉もありました。継続できるものは継続し、頑張っていたきたいと思いますし、これまでの実施状況や成果が確認できましたので、これから予定している事業についても十分に成果が達成できるように努めていただきたいと思います。 続いて（２）意見交換に入ります。 今年度は、市の最上位計画であります令和3年度からの「第2次北秋田市総合計画後期基本計画」が策定されます。また、教育委員会においても「学校教育ビジョン」、「スポーツ振興計画」が策定される予定ですので、別添資料により説明をお願いします。
金田総務課長	この資料は、現在の「学校教育ビジョン」、「スポーツ振興計画」を抜粋したもので、計画の要点を示しています。共に地域の実情に則して確定されているものですが、今後、次期計画の策定に当たり、委員の皆様方から御意見を賜りたいとの考えで意

金田総務課長	見交換に取り上げさせていただきました。あくまでも次期計画の参考にということで、気軽に御意見をいただければと思います。 ここで、学校教育課とスポーツ振興課から、計画策定までの現在の状況を若干お話させていただきます。
小林学校教育課長	本来は昨年度がビジョン策定の時期でありましたが、「秋田県の第3期あきたの教育振興に関する基本計画」が令和2年度～6年度までであること、第二次北秋田市総合計画後期基本計画が策定の時期になっていることから、これらに合わせて「学校教育ビジョン」についても定めることにし現在動いています。基本ラインとしてはあまり変更はなく、それは、県の計画もあまり変更がなかったこと、市の後期計画に盛り込むものとしても、これまでのものを踏襲しつつ、ふるさと教育や地域の実情に合わせた教育という点については進化していきたいと思っていますが、それ以外のところについてはこれまでの方向と変えないで作成しようと思っています。
藤野スポーツ振興課長	続いて「スポーツ振興計画」ですが、現在の計画は平成30年度～32年度(令和2年度)の計画です。第二次北秋田市総合計画前期基本計画も平成32年度までになっており、来年度新たにスタートするということです。「スポーツ推進計画」の冊子の中を御覧いただいているかと思いますが、各データが中心になっており、集計に基づいて策定していくものです。内容については、執行や要望が年ごとに微妙に変化しています。小・中学生と、一般向けのアンケート調査を行って集計作業を進めており、分析した上で方向性を出しながら、スポーツ推進審議会で協議後、教育委員会へ上程することになります。
津谷市長	それでは、状況の説明もございましたし、教育委員会の事業について自由に御意見、御提言をいただきたいと思いますのでよろしくお願いします。
佐藤正俊委員	地域の教育力はとても大事なことでと思いますが、統合することによって、どのようにしたら地域全体の足を学校に向けられるのか。これから阿仁の統合・再編に関わって、大阿仁を例にしてみると、今は小さい地域で行きやすい場所に学校がありますが、統合して阿仁合の方に学校ができるとすれば遠のいてしまうのではないかと、地域の力をもらいにくいのではないかと思います。一緒に子どもと活動する時間が制限されていくことが心配されます。合川のように東西南北の中心に学校があると、学校に足が向けられるし、現在はそういう形ができています。今はまだ統合の前ですが、高齢者の多い地域でもあるので、どうやって力をもらったらいいのか。 もう一点はふるさと教育ですが、阿仁地区では大変長い間、伝統芸能継承のために地域から指導者を招くなどして伝統芸能を指導してもらいました。だんだん学校規模が小さくなると同時に、地域に子どもがいなかったために継承されないままです。伝統芸能活動がなくなっていくことも心配の一つです。以前は1日目に伝統芸能の発表、2日目は普通の学校の発表と二日間の学校祭を開催していましたが、今は1、2点の

佐藤正俊委員	発表だけで他はできなくなっています。北秋田市で大事にしている、地域の協力を得ていろいろなことをやるということができなくなっていく状況にあります。統合した時にはこうなってほしい、という重点目標が施策の中に組み込まれていないと難しい気がします。
津谷市長	重い課題ですが、学校教育課長。
学校教育課長	これから策定するものですので、今は言うことができないのですが、学校が統合すると距離が遠くなることについてはどうしようもありません。阿仁の小学校・中学校の統合の方向性を決めた際に、何がネックでそうなったのかというと、前田まで行く、あるいは別の地域まで行くのは遠過ぎて行けないことだったので、統合しても遠くなるということはどうにもならないことだとは思いますが。 この後、どうやってふるさと教育を推進していくかについては、個人的な考えではありますが、学校運営協議会がそれぞれの学校にありますので、それぞれの代表の方々に来てもらって、話し合いながらコーディネートしてもらおうしかないのかと思っています。 また、各地に残っている伝統芸能を全部残すのはたぶん無理かと思っています。今年の人数だとしても阿仁合小、大阿仁小、阿仁中3校の人数を足しても76名です。そうすると小1から中3までのところで、各地に残っていた伝統芸能全てを継承するのは無理だと思うので、そうなった時にどうするかということは、学校で決めるというよりは学校運営協議会の中で取捨選択していく場面は必ず出てくると思います。
津谷市長	そういうことが考えられるということ。
小林学校教育課長	起こりうると思います。
津谷市長	学校の先生方も委員もお分かりのとおり、子どもの数が多くて、そこに人がたくさんいて、人が多いと集まれる近いところに学校ができ、地域の方々も協力できたのだと思いますが、だんだん人が少なくなって統合になったりする訳です。時代の流れと一言で言ってしまうえば寂しい話ですが、時代に合ったような形になって行くでしょうし、鈴木健二さんというNHKのアナウンサーをやった方は、熊本県立劇場の館長になった時に、九州全部の伝承芸能が途絶えていくということで、アーカイブとして残すためにBSで放映しましたが、結局、当時放映された芸能はほとんど継承されていないそうです。この地域でもこの先、取捨選択していくのか、残すものをどうしていくのか真剣に考えていかなくてはいけないと感じます。
佐藤正俊委員	平成21年3月に竜森小学校が閉校した時に関わっていましたが、竜森小でやっていることを統合した鷹巣南小が受け継いでいます。来年は鷹巣中央小と統合して、おそらく受け継いでいくのだらうと思います。今までの伝統を受け継いでいける学校づ

佐藤正俊委員	くりが大事ではないかと私は思います。なくなっていくのではなくて、大事なものは残す努力が必要と思うし、どうすれば残るか知恵を絞って考えていかなければならないと思っています。
小林学校教育課長	だからこそ学校運営協議会が発足したのだと私は思っていて、校長が学校経営の方針を立てた後に、それを地域の方も含めた学校運営協議会で話し合いをして、皆で認める訳です。認めたものを方針としていくので、これがないから入れてほしいとする意見があったとすれば、その中でまた話し合いをし、この学校の地域からは絶対に外せないからそれを核に据えてふるさと学習を進めたいとすれば、そのような方針になるでしょうし、校長が学校経営の方針を定める際に自分の学校では何を核としていくのか、そこにあると思います。 ただ、たくさんの学校を統合して、新しい統合校がそれぞれの地域にできているので、母体になったそれぞれの学校のもの全部をやらなければいけないのかとなると無理が生じます。その中で何を中心にするかは運営協議会の中で話し合いながら、学校と地域で考えながら進めていく事になると思います。
佐藤教育長	例えば鷹巣東小学校は、労作教育が昔から盛んで勤労体験をやってきた。ところが、ある時代、教職員の意見を受けた校長が全部やめてしまったのですよね。今まで積み重ねたものがなくなってしまい、地域の人たちは学校のことでですから口を出せない。何代もの校長が関わって、今また当時のものが復活してきて少しずつ積み重ねています。それは学校運営協議会、地域の願いも入れて話し合える組織ができ、動き始めたからではないかと思っています。 鷹巣南中がなくなった最後の年に、南鷹巣の子どもたちが上舟木の駒踊りを正課クラブでやっていました。しかも驚いたのは女子が駒をやっていたことでした。昔であればあり得ない文化であったと思いますが、地域の人たちも、女子でも男子でも、違う地域の子どもでもやってくれる、これは統合のメリットになってくるのではないかと感じています。 今回の阿仁地区の統合について、例えば比立内の獅子踊りにしてもほかの地域の子どもたちも一緒になって、これは続けていこうと地域の人と相談しながら進めてほしいと思っています。課長が言うように、学校運営協議会を大いに機能させて、できる範囲の中で、ある数の中でやっていけるような学校ができてくれればいいと思っています。そうして魅力が出てきて移住定住に繋がればよいと願っているところです。
津谷市長	ありがとうございました。地域の人々の理解と、どうしたら残せるかという工夫が必要です。 それでは、意見交換はこれまでとしてもよろしいでしょうか。先ほど来、話が出たことを今後の計画策定や事業にいかしていただきたいと思います。 ここで進行を事務局にお返しいたします。

小笠原教育次長	市長、進行ありがとうございます。 次第の5番その他に入ります。その他、案件以外で皆様の方から何かございますか。
津谷市長	先程「きらり☆きたあきた」が学校でとてもよい使われ方をしていると聞き大変うれしく思っています。こういうことによって、正俊委員の話ではありませんが、ふるさとを思ったり、受け継がれたものを大切にしようという気持ちが出てくるのだと思います。ありがとうございました。
小笠原教育次長	他にございませんか。
佐藤正俊委員	コロナ禍で教育留学が中止になっていますが、以前留学していた大阪、東京の保護者と学童研修センターの職員が連絡を取り合っています。籍を置いている学校の先生ではなく、こちらの先生に相談などがよく入っています。少しずつですが大阪の子も、東京の子も学校に行っているということです。どうして変わってきたのかというと、コロナ禍で午前授業と午後授業に分かれているので、少しの壁がとれて行けるようになったのではないかと親御さんからの連絡でした。頼りにされているという報告でした。
小笠原教育次長	情報提供ありがとうございます。他にございませんか。 ないようですので、これをもちまして令和2年度第2回北秋田市総合教育会議を閉じさせていただきます。本日はありがとうございました。

(午後3時21分 閉会)